



雨のにおい星の声 出版社:小峰書店  
赤座 憲久(ぶん) 鈴木 義治(え)

運動場に雨がふると、土のにおいがすると詩を書いたのは生まれつき目の見えないマシオ。目が見えなくてもそのほかの感覚で色々なことを感じることができるのです。見えないけれど感じている。空の星の声、風のかたち。見えているわたしたちが気づいていない世界を教えてくれる絵本です。ぜひ声に出して読んでみて、すてきな言葉の響きを感じてください。

地球を旅する水のはなし 出版社:福音館書店

大西 健夫(著)、龍澤 彩(著) 曾我 市太郎(イラスト)

「あっ、雨だ!」

高い空からやってくる雨。この水はどこへ行くんだろう?  
水は、旅をしている。地上から、空へ。空から、地上へ。

地球上の水の総量は少なくとも38億年前からほぼ一定であるとされています。世界と私たちは時空を超えて水を通してつながっているのです。この絵本は水の旅をステキなイラストとわかりやすい説明で案内してくれています。日常ではなかなか気にとめない雨の壮大な旅を、あなたも感じてみてください。

雨やどりはすべり台の下で 出版社:偕成社  
岡田 淳(著)

スカイハイツマンションに1人で住む不思議な人“雨森さん”。一郎たちスカイハイツに住む子どもたちが公園で遊んでいるところを雨森さんが横切ると急な雨が! すべり台の下のトンネルへにげこんだ子どもたちが雨やどりをしながらひとりひとり話したちょっと不思議なお話はみんな“雨森さん”につながっていました。雨森さんとそれぞれの子どもたちとの不思議で心がホワホワするお話と、引っ越していく雨森さんへの子どもたちからのメッセージとなる最後のお話。読み終わった後に心がじんわり優しい気持ちになれる本です。おまけのお話、“下の景色”もおちがいい味出してますよ。

